

説明してからでないと、それはよくないですよ。公費ですもん、この事業だって。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

そのあたりはしっかりとけじめをつけた中で、協力をお願いするということになれば、お願いを
してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

けじめのつけ方はいろいろ捉え方もありますんで、100人が100人、そうだなっていうけじ
めのつけ方をされてから、予算を執行していただきたいと思います。

ちょっと多岐にわたりましたが、ご答弁ありがとうございました。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を5時45分といたします。

+

〈午後 5時35分 休憩〉

〈午後 5時45分 開議〉

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一です。

発言通告に基づいて、一般質問を行いますので、よろしく願いいたします。

1、移住・定住促進について。

糸魚川の移住・定住の現状とその促進策について伺います。

(1) 移住・定住の現状について。

- ① 定住促進課設置後の移住状況。
 - ② 空き家情報提供制度の登録状況と空き家改修事業の利用状況。
 - ③ 地域おこし協力隊について。
 - ④ 移住アドバイザーについて。
- (2) 糸魚川ジオパーク匠の里創生事業「匠の里プロジェクト事業」について。
- ① 現在の取り組み状況。
 - ② 本事業の目的及び計画。
 - ③ 市内既住のクラフト作家との連携について等を伺います。

2、中山間地の活性化策について。

(1) さんビズについて。

月3万円程度の収益を上げることを目標とする小さなビジネス「さんビズ」は、中山間地活性化に有効な取り組みの1つと思われます。

県内では長岡市が本年度講座を開催し、先日行われた成果発表が報道されております。当市においてもこの取り組みは検討してはどうかと思うが、考えを伺います。

(2) 生薬の里づくりについて。

糸魚川市、特に能生地域では、農家の副業として昔からヨモギを初め、薬草の採取が盛んに行われ、貴重な収入源の1つでもありました。

高齢化が進み耕作放棄地対策が課題の現在、改めて薬草に着目した動きが見られます。

能生地域で取り組みが始められている生薬の里づくりについて、市の考えを伺います。

(3) 森林整備の取り組みについて。

1つの実践例として能生地域（特に神道山周辺）でNPOが取り組もうとしている森林資源搬出利活用計画があります。

自伐林業などを実践し、交流人口の拡大にも貢献しようと計画をしていますが、この事業についての認識と事業に対する市の考えを伺います。

3、新学習指導要領について。

2月14日に公表された学習指導要領の改訂案では、グローバル化や情報技術への対応を目指し、小学校からの英語教科化とプログラミング学習導入などが盛り込まれています。

現在パブリックコメントを募集しているところですが、この学習指導要領で、特に英語とプログラミング学習について、市の考えを伺います。

4、北陸新幹線の騒音問題について。

北陸新幹線開業から間もなく2年が経過し、1つの期限でもある3年目を迎えることから、騒音問題の現在の状況と見通しについて伺います。

(1) 音源対策の取り組みの状況について伺います。

- ① 緩衝工窓の閉塞工事による騒音防止効果について。
- ② 吸音板設置工事の進捗状況について。
- ③ 今後の防音対策の計画について。

(2) 騒音被害の沿線住民への取り組み状況について。

以上、1回目の質問です。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、当市の移住・定住の各種制度を活用した移住者としては、平成27年度が7名、28年度が現在28名であります。

2つ目につきましては、売買・賃貸合わせて44件の登録であり、空き家改修事業は平成27年度が1件、28年度が現在4件であります。

3つ目につきましては、都市部から3名の若者が地域づくりのため、市内で活動いたしております。

4つ目につきましては、現在11名で、市外から移住された経験を生かして、希望者への情報提供や、移住後の生活サポートを行っております。

2点目の1つ目につきましては、今年度は手づくり工芸作家、2組4名の移住が決定いたしております。

2つ目につきましては、移住者の増加と地域や各団体の活性化を目的として、平成31年度までに10組の移住を目指す計画であります。

3つ目につきましては、市内の作家とイベントや展示会などを開催し、相乗効果でさらに大きな輪になっていくことを期待いたしております。

2番目の1点目につきましては、スモールビジネスとして長く続けられることから、中山間地の新たなライフスタイルとして注目をされており、市としても、これらの取り組みを支援してまいります。

2点目につきましては、専門性が高く、栽培面や価格の面から課題も多いと認識してはありますが、農地の利活用等が期待できることから、市としても、調査研究しております。

3点目につきましては、NPO法人「高志の福祉村」明るく豊かに暮らすネットワークが、神道山周辺において、今年度から国の支援を受け、森林整備に取り組んでいるもので、市としては、他の地区にも働きかけしてまいりたいと考えております。

3番目につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

4番目の1点目の1つ目につきましては、柱道と梶屋敷の両地区とも、県による騒音測定の結果では、工事前とほとんど変化がない状況であります。

2つ目につきましては、梶屋敷地区は明かり部分については今年1月に完了し、柱道地区と小見地区では、2月から工事が始まっております。

3つ目につきましては、柱道地区において吸音板設置工事が続いて、防音壁のかさ上げを実施する予定であります。

2点目につきましては、鉄道運輸機構により、約630戸の住宅で騒音測定を実施し、約240戸で基準を超えている状況であり、そのうち約100戸については補償の契約を完了いたしております。

市としては、鉄道運輸機構に対して、早急な工事の完了と補償の実施を強く要請いたしております。

す。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

田中議員の3番目の質問にお答えいたします。

小学校における英語の教科化に向け、モデル校による研究やALTを増員して訪問回数をふやすなど、英語教育の充実を図ってまいります。

また、プログラミング学習については、研究を進めている大学からの協力を得て、教職員の指導力向上を図るなど改定時の対応に向け、準備を進めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それでは再質問、移住・定住であります。

人口減少、非常に喫緊の課題であります。人口減少による社会、あるいは地方自治体に与える影響、非常に大きいものがありますし、いろんなサービスにも影響を与えます。ある資料を見ましたら、合併時の人口、糸魚川市、4万9,844人、ことしの1月が、4万4,417人。単純に引きますと、5,421人が減少という数字が出ております。2年前に定住促進課が設置されて、ここに力を入れておられるわけですけれども、この2年間において、まず具体的に成果を上げたもの等を中心とした施策・取り組みは、どんなものがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

この2年間での具体的な成果ということですが、移住・定住の部分につきましては、今年度も春から3つほど、新しい制度をつくったりしまして、制度的に利用されて来ている方が、昨年7名のところは28名、これも春までにはもう2名ふえる予定ですので、30名になる予定になっております。そういったところが1つ、成果であろうかと思ひますし、その中の大きなものとして非常に明確なのが、やはり匠の里の移住の方ではないかなというふうに考えております。

ほかでは、空き家の非常に効果があったと思われるのは、空き家の家賃補助というようなあたりも非常に評判がよく利用者が多く、定住につながっているのではないかとこのように判断しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この春までに30名になると。7名から約4倍の伸びになっているなど。その成果が、今、言われたとおりなんですけれども、4倍の伸びというのはすごく評価ができると思うわけなんですけれども、その中に匠の里も入っているということですよ。この数字は数字なんですけれども、年度ごとの目標値というものを設定して、今度、施策をとっておられるのかどうか、その辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えします。

目標としては、年間30人という移住者を目標に考えております。ただ、これも我々の定住促進課の事業だけではなくて、企画支援とかそういった企業支援ですね、そういったところのものも含めてというふうに考えております。30人、5年で150人というのが、人口ビジョンにおいての目標にもなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

本議会の冒頭で、市長の行政報告で田舎暮らしの本において、いいランキングがあったと。

私、調べてみましたところ、全国で若者が住みたい田舎が7位、総合が11位、若者が住みたい田舎が7位。これらの取り組みが効果を上げたということなんですけれども、北陸エリアを見ますと、総合で2位、若者が1位というふうになっておりますね。非常に素直に喜びたいなど。先ほども数字を伺ったんですけれども、実感として、それだけ本当に、ランキングに載るほどの成果が上がっているのかなというのが、まだあるわけなんですけれども、例えば、総合1位の鳥取市、その取り組み見ますと、1月10日を移住の日として、移住交流情報ガーデンを設置したり、鳥取市出身の石浦関をシティセールススペシャルサポーターに就任して、相撲を住もうとして、住もう鳥取市キャンペーン。平成18年からは、移住者数が1,800人を超えてると。こういった情報は、当然、集めていると思うんですが、まず、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

住みたい田舎ランキングにつきましては、大変、発表のあったときに喜んだわけなんですけど、実感ということでありますと、まだ糸魚川市は、このランクがあらわすほどの実数には至っていないというふうには考えております。これは、これからこのランクといえますか、この評価のよさを

+

生かして、これからまた、その成果につなげていかならんというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、鳥取の例を挙げて、こういったのも参考、あるいは見ているかどうか、知っているかどうかというのでも聞いたんですけども、ついでに言いますと、2位の豊後高田市、これは平成20年度の移住者数が134世帯で280人。やはり移住者の支援サイトというのは、鳥取も豊後高田も、物すごくすばらしいものがあります。一目見てもう、すぐにわかりやすい。

ちなみに3位が南砺市。こちらのほうも、ホームページのほうがすごくわかりやすくなってますし、さらにホームページのホームには、地域おこし協力隊のフェイスブックのバナーまで張られていますわね。

そういったのは、もう一度聞きますけれども、全部、目を通しておられたり、参考にされていたりしているかどうかを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

上位ランク、上にあるものについて、全部ではありませんけれど、幾つか市町村の分については、そういったあたりの研究もしております。先進地として、やはりまねていかなきゃいけない部分、非常に多いかなというふうに考えております。

やはり、その中では、うちはやっぱり発信力の部分が、まだ弱いなというふうに考えておりますので、その辺をやはり制度のたくさんある、それからいい制度をいかによく発信するかというところではないかと。先進地、実数が伴っているところは、やはりその部分の差が大きいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

何で、若者世代が今回は上位なんでしょうか。その辺の分析はされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

実際、アンケートなんですけど、この住みたい田舎、田舎暮らしの本という本で調査をしておるものなんですけど、全国の市町村にアンケートをとった、回答は500だったというふうにお伺いしております。

総合アンケートでは82項目なんですけど、若者世代が住みたい田舎アンケートは19項目になっ

ておりまして、その中には、やはり奨学金の返済とかという項目があって、今回それも、我々、新たに加えておりますので、そういったところで評価を受けたのかなと、点数が上がったのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

じゃ、実際に若者が来たというのを、この中に入ってるというわけでもないんですか。今回の数字の中、30の中には、何世帯が来られてるんでしょうか。年代としては、若い人が多かったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

このランキング自体は、移住者の実数ではなくて、制度のいろんな項目があるものを、点数をつけてランクつけるというようなものになっておりますが、今回、我々の制度で、特に修学資金の支援のほうが、やはり修学資金の支援ですので、要は学校終わったばかりの方が多いということで、20代の方で7名という実績がございます。

それから、家賃補助も今回は結構、若者のほうの利用が多くて9名ですね、20代から30代で9名と、子供も中には含まれておるんですが、そういった実績になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

わかりました。

せっかくの移住者を、今後、長く定住していただく、そのための施策というのはどのようなものがございませうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

やはり、今ほども若者のほうになっていきますと、特にUターンの関係であれば、やはり仕事ではないかなと。仕事が充実しているとか、そういったことがあろうかと思っております。やはり、糸魚川の売りとしては、自然環境とか、それから結構、子ども・子育て支援も充実しておりますので、そういったところも売りになろうかとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

あともう1点は、若い人と対照的にかなり、ある程度、都会で働いてこられた方っていうのは、また見ようによってはといいましょうか、実際いろんな知識や経験や人脈いうところを持っておられる方が来られる場合があるわけなんですけれども、それらをやはり生かさなきゃいけないんじゃないかなと思うわけなんですけれども、その辺の取り組みというのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

やはり外部の人材活用といったところで、やはりその人材をいかに呼んでくるかっていうあたりは、非常に重要なことというふうに思っています。これはIターンが主になってくる、対象がなってくるわけですが、ただ、現状としては、非常に全国的に厳しい状況になっていることも間違いありません。そこで、いかに糸魚川の魅力を打ち当てていくかということでありまして、今までは、どちらかというのと来てくださってという方向で、移住の政策を進めておりましたが、来てくださる首都圏で展開したいなというふうには、今後のプランとしては盛り込んでいきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それもそうなんですけれども、実際、来ていただいた人のスキルを生かす工夫というものが必要じゃないかということ言ってるんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

当然、その方が持っているスキル、そういったものをどういうふうにも、また糸魚川に生かしていただくか、そういったところで生きがいになって、糸魚川に定住してもらおうというのが、やはり理想的な形です。移住をされるときの、その移住される方のスキルによって、いろいろ変わってくるかと思えます。我々は、ワンストップ窓口として、そういう方々の支援なり、また居場所といいますか、それから人と人をつないだりといったことを、お手伝いできればなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そういったこともそうなんですけれども、要は地域の中に入って、コミュニティなんかも大事なんだけど、その生活の中でルーティンでもう終わってしまうというばかりじゃなくって、積極

的に来るまでの間に培ったものを生かす、具体的な工夫というもの、そういったものが必要じゃないかと。そのための施策というものを用意しているかということなんですよ。

もう1点、あんまりこればかりやると、時間がどんどん過ぎますので、先ほど、課長の答弁で、外部の人材が大事だということが、今度この③の地域おこし協力隊につながっていくわけなんですけれども、今さっきの答弁と、地域おこし協力隊に対する考えを、あわせてお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

地域おこし協力隊は総務省の、ご存じのとおり総務省の仕組みでございます。都市圏から地方へ移住して、地域の活性化に力を貸していただくという制度ということで、やはり2年目に、もう2年目も終わろうとしておりますが、やはりどんなことをやってもらえるっていうか、やってもらおうかというあたり、その辺が非常に重要じゃないかなというふうに考えております。

誰でも彼でも来てくださいというのではなくて、こういう仕事があるので糸魚川で頑張ってみませんかという形で来ていただくということなので、募集の段階から、かなり大きな目的、目標を設定した中で募集してふやしていくと。

そのためには、地区の皆さんといろいろ話をしながら、どんな地区に課題があるんかとかそういったことを、そういったものを捉えて、それに応えられる人を協力隊として呼んでくる。しかも非常にいい制度ですので、これがそのまま定住につながってくれば、やはり成果となっていくかなというふうに考えておりますので、こういった形での採用も、積極的にしていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

地域おこし協力隊、今、いろいろと言われましたけれども、確かに総務省の地域力創造・地方の再生事業っていうことで、地域おこし協力隊、それから集落支援員があるわけで、それを活用されているということですよ。

今、3名の方がおられるということで、1年ごとの更新であるわけですけども、きのう、タイムス紙にも大きくその活動が取り上げておられました。ミッションがあるわけなんですけれども、現在、その3名はどのようなミッションを持ってやっておられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

3名のうち1名は、小滝地区を活動エリアとして、そこの人物つなぎ、要は人物つなぎをしながら、小滝の魅力を発信して、交流人口拡大につなげたいということで、現在、活動をしていただいております。

もう1人は、空き家バンクの管理・支援ということで、空き家バンクの管理業務等について、情報発信等に力を出していただいております。

もう1名は、この10月からの採用だったんですが、上早川地区において配置しておるんですが、地域づくりプランで、地場産物の販売促進と、直売所の運営ですね、それを支援ということで、それを1つ目的にして、現在、頑張らせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほど、スキルの話もして、それまだ答えてないんですけども、それとあわせて、先ほどそのときの答弁で、外部の人材も重要だと。大変優秀な方が3名来られているということで、よそからの視点、そういうものの考え・意見、これは非常に大事なものじゃないかと思うわけです。

また、それを生かすために、彼らを招いてやってるといふふうに理解しておるわけなんですけれども、問題は、それを受け入れる側が、ちゃんと受け入れられる環境を整えているかどうか、そういうのが問われると思うんです。彼らを定期的に課長、あるいは部長・市長、意見を取り入れる場というのを設けておられるでしょうか。これまで何回、例えば月1回とかそういうふうやってきておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

まずは、地区の皆さんとの関係づくりっていうのが、非常に大事なと思っておりますが、職員との意思疎通という部分で、いろんな提案とかも聞く場ということなんです、我々、協力隊だけではなくて支援員も含めて、月に1回、定例会というのを職員とやっております。

その中で、中心は活動における悩みとか活動状況の報告とか、悩みの相談とかそういったことが中心になるんですが、そういった中で、やはり今度、こういう活動をしたいといったものも出てきたりもします。

年に3回、初期・中間・末期と、要は面談も行っております。その面談では、春はことしの目標、中間ではそれがどうだったか、期末では年度を通してどうでしたということ共有するようにしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、新たに2名の募集を行っておりますよね。この20日が締め切られたはずなんですけれども、その応募状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

2名募集なんですけど、移住コンシェルジュ1人、それから空き家バンクの関連1人ということで2名だったんですけど、移住コンシェルジュのほうに2名、ちょっと応募があったということで、今後、面接をしながら採用していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほども、お話ありましたように3年、通常は任期があるわけなんですけれども、1年ごとの更新ということで、今、おられる3名の人たちは、もう自動的にといいたいでしょうか、3名とも契約を更新され、一緒にまた、今から2名と、これは2名じゃないんですよね、2名を受けたけど、どちらか1人を採用するという事なんじゃないかな。ちょっと、その辺の部分は答弁もあわせて、更新をし5名、あるいは4名でされていくのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

まず現在、今いる協力隊3名ですが、実は1名、空き家バンクをいろいろ管理、情報発信していた男性なんですけど、もともと東京の出身なんですけど、首都圏へ戻ってちょっと自分で仕事をしたということ、残念ながら今期で帰ることになりました。それらも含めて、今後また、入れかえていいですか、かわりの人間も採用していかなくちゃいけないと。

現在、2名の方については、面接等をしながら決めていきたいんですけど、今後、1名だけにするか2名両方採用するかあたりは、またちょっと、庁内でも相談しながら、人物を見て相談しながら決めていきたいなというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

非常に意欲を持って、大抵3年はやる、また、総務省のほうのホームページ見ても、さらに定住をしていくことを念頭に来られる。よっぽどのがあって、ことしで帰られるのかなというふうに思うんですけども、しっかりその辺、その方とのコミュニケーション等をとって、それを今度、再発しないようにしっかりやらなければいけないんじゃないかと。今の話だけでは、何でやめていかれるのかなというところがありますので、しっかりと対応をお願いしたいと思います。

3年の任期が終わるとってこともあるんですけども、今回の募集の要項を見ますと、雇用形態がなくて、非常勤特別職で社会保険に加入してなくてと、ちょっと見た限りでは、身分が不安定に感ずるんですけども、その辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

この部分につきましては、やはり協力隊の今までの2年の活動の中で、要望として出てきておったんですけど、やはり3年後たった後に定住していくには、少しいろんな、自分なりにいろいろちゃんと仕事を見つけながら、やっぱり活動もしていきたいということで、非常勤の一般職、通常の臨時さんの扱いですと、要は副業が禁止になってしまいます。やはりそういう意味で、副業をしながら、副業もして次の定住に結びつけていきたいんだという話が非常に、協力隊員さんの場合強くて、これは全国的に見ても、非常勤特別職で採用されているところが多いということも一応、調査でわかりましたので、今回、そういった形で身分の変更をしたいということで、協力隊からの要請の中で、やはり副業を認められる立場ということだと、非常勤特別職だということ考えております。

ただ、保険等の条件が少々悪くなってしまいますので、その辺も一応、話をしながらどちらかということも相談しながら、今回、非常勤特別職のほうに、要は契約といいますか採用のほうを変えたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

総務省のホームページでは、受け入れ自治体によって異なると、その辺の条件が。受け入れ自治体によって、随分と待遇が違うようでありますので、今、課長の答弁では課長も各地のほうを調べたと。

私もちょっと調べてみたんですけども、実際、ほとんどのところが社会保険には加入しているようですね、私が見たところでは。そうでないところは、何か自己負担でやるような場合には、その分を上乗せしてやっていると。総務省からの交付金もあるわけなんですけれども、それにとどまらず、やはりそういうふうな待遇をやっているところが、各地の自治体においては見られる。

ぜひ、そういったことをやっていかないと、なかなか集まらないんじゃないかなと。また、安心して働けないんじゃないかなと思いますので、検討をよろしくお願ひしたいと思ひますし、また、せっかく来ていただいた方、3年後、今度こちらに定着していただく、それがやはり重要なことじゃないかと思うんです。もう1回、その辺のことをお伺ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

非常勤特別職の場合は、通常で言う雇用形態には当たりませんので、なかなかその辺で雇用保険とかそういったものは、本来であればできないかなというふうに考えております。そういったものも含めて、協力隊の身分やそういったものについても、いろいろ調べる中で、我々も雇用主としてというか、契約者としてどうあるのが一番いいのか、その辺もコンプライアンスに基づきながらも

やっかんならんということ、非常に苦しい判断をしている部分もあります。ただ、それもやはり、副業をやって定住に結びつけてほしいという我々の願いがありますので、その辺を含んでいただきながら、協力隊として活躍していただくということが肝要ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

副業は認められるってということだけど、実際に副業ができるかどうかの環境づくりも必要じゃないかなというふうにも思いますし、また、それに伴って資格等を必要、あるいは取れる環境というものも必要になってくるんじゃないかなと。その辺をどのようにとったらいいかというところも、相手とよく話をしていけないんじゃないかと。

その辺のところもちょっと、他の自治体見たりしていると、寛容なところが結構見られます。要は、どれだけ彼らを受け入れて、それを活用して、どのように大事にも扱ってうまくやっていくかということじゃないかと思うので、しっかりと話し合い等をやって、定住に結びつけていただきたい。また、活用してもらいたいと思います。

移住アドバイザーですけれども、この3月で、とりあえず第1期が終わりますわね。そのようにホームページにありました。第2期については、どのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

移住アドバイザーについては、これでまた2期に入るんですけど、このまま継続して契約していただきたいなというふうに、制度を続けていきたいというふうに考えております。

残念ながら、ちょっとお一人、移住アドバイザーができなくなったという方はいらっしゃるんですけど、人数の変動は出てきますが、基本的には、今やっていただいている方に引き続きお願いしていく予定です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

1人、都合でやめられるということなんですわね。

やはり移住された方は、移住アドバイザーということなので、移住された方のケア等に、あるいは移住する前のいろいろな相談事っていうんでしょうか、そういうアドバイスをする仕事かなと思うんですけども、主に相談される、移住前の皆さんが一番心配されることって、一体何なんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

アドバイザー制度で、これで活用してお礼を差し上げられたのが、まだ1組です。なので、実績として余り声としては聞こえてこないんですけど、やはりいろんな、移住アドバイザーさんには移住フェアとか、首都圏でのそういったところへの、先輩としてのアドバイスの役割として、我々と一緒に移住希望者に相談乗ってあげたりしております。

そういったところではやはり、何ていいますか、田舎暮らしにただただ憧れるだけではだめだよっていうことを、注意しているんだというふうに、この前のアドバイザー会議でもお話がありました。いきなり来て仕事はありますかみたいな話だと、なかなかその通常、今、希望する移住っていうのは難くなるんじゃないかなというような感想も聞いております。

そういったことで、あとは移住者さんから、このアドバイザーさんから自分の経験としてお伺いしているのは、やはり地元の人との、要はつき合い方。あと、区というかそういった地元の行事や集団作業、そういったものについて、余りにもわからなかったという戸惑いが聞かれておりました。そのために我々、そのための移住者に向けてのそういった地域情報を発信するガイドブック等も、作成に結びつけております。そういった移住者アドバイザーさんの声がございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

次の、匠の里であります。

先日、キャンドルロード、根知谷でありました。これはそのチラシなんですけれども、大変多くの方が見えたそうで、復興ということも絡んで、大変盛大だったようであります。私は、残念ながら行けなかったんですけれども、匠の里クラフト展同時開催というふうに、特別サイトのほうにも書いてありましたけど、このチラシにもありますよね。

匠の里プロジェクトは始動はしたけども、もうでき上ってるような雰囲気に見えるんですけども、匠の里はもうできているっていうふうに解釈してよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

匠の里ができているかという、まだ途上ではあるというふうに思っております。まだ、決まっている方が2組だけですし、9月ですか、田中議員からご質問のあった全国的な事例の中で、やはり匠の里とって、1つの集落みたいなものを形成したものというのは、ちょっと我々が今、目指している匠の里とはイメージとしては違いまして、今、根知を中心に来ていただいておりますけど、根知全体が匠が、要は作家さんが散らばって、根知全体が小さいアートトリエンナーレのように、人々が巡回するっていうのを目指しております。その、ようやくスタートを切ったということでのまだ、匠の里であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

どうしてもこういうふな書き方だと、そういう印象を受けてしまいますね。

それからこの中に、匠ハウス和泉という会場になってますけれども、これはこういう会場、匠ハウスというのはこういう、何というんでしょう、匠の里の何か中心、拠点施設みたいに見受けるんですけども、これはどういう存在なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

今回、移住される匠さんが入られる住宅のことを、我々、匠ハウスと呼んでいるものですから、それをチラシにつけてやっておるということで、今回の会場については、その移住されてくる匠の方も非常に大きい民家を希望されまして、そこでどうするかっていうとやはり、プライベートの部分は少なくてもいいんだけど、大きい部分はパブリックに使ってもらって、いろいろとやっぱり人と人をつないだり、物と物をつないだりしたいという思いから、そういった発想から我々のほうで、匠ハウスという名前が自然発生的に出ておまして、それを今回、使ったということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

もうちょっとこのチラシあれなんですけれども、今後、この事業を行っていくに当たって、先ほど市長の答弁では10組でしたっけ、平成31年度までにやりたいということなんでありますけれども、匠・クラフト・手づくり工芸作家・クリエイター等、非常に言葉が錯綜して、同じ意味なのか違うのか、ちょっとその辺の定義というものがどうなっているんだろうかという印象を受けます。クラフトというと、毎年秋にクラフト展をやっている、そちらとのイメージも重なってきます。その辺、クラフトの人たちにとって匠っていうのは、一体どういうふうイメージ描いてやってんのか、連携等、これからうまくいくのかどうか、ちょっと気になりますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

今回、このイベントをやってみて1つの反省材料の1つであろうというふうに思っておりますし、今後、事業を進めていく上でも、匠の部分の定義、非常にやっぱり曖昧な部分もあるなというふう感じております。

匠ですと、我々、手工芸といいますか、手でものづくりをされる方、工芸作家っていうイメージでおったんですが、今回、絵を描く人になりました。ちょっとイメージしておった部分、確かにだけどもものをつくっておりますので、そういったあたりが、またちょっと違ってくるかなというふう

なことで、今後、もう少ししっかりと定義づけもしながら、募集をかけていかならんと思いますし、今はそういった手づくり工芸作家という匠で、意味を捉えておりますけど、今後はいろんな地区では、もっと違う匠もあっていいかなということで、そういった意味では、この匠っていう部分は残しながら、どんな人っていうのをちゃんと定義して、移住につなげていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

結局、この②で聞いております、匠の里事業の目的、計画、それに当たって匠という概念がしっかり定義されていないから、そのようになってくるんじゃないかと。やはり、既存にクラフト作家がいるわけであって、その辺と連携ができていないんじゃないかなというところも、1つ考えてしまうわけですね。今後は、展開していくに当たって、今、課長も答弁されましたけれども、しっかりその辺を配慮をしながらやっていかなきゃいけないと思います。

10組というふうになって、それで終わりになるかどうかわかりませんが、市内において、今、クラフト作家は何人、あるいは何工房あるのか、その辺の把握というのはされておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

たしか、我々この匠の里をやるときに、いろいろと市内で調べて、ただ、全部網羅できてるわけじゃないんですけど、こういった方が多いとこはどこだろうといったところで、根知と上南地区が挙がってきました。根知には5名、たしか上南には3名の方だったと思われれます。そういうふう理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

これ、やっぱりこういう事業をやっていくに当たって、市内にどのような工芸作家、クラフト作家がおられるかどうか、その定義に従って、この人はどうなのだというのをしっかりやっていかないと、早くやらないと事業が進むにしがたって、こんがらがっていきますし、うまくいかなくなっていくと思います。

やはり、そういった先進例として、私ら、昨年、調査に行ったときの目的はあれだったんですけども、九州の綾町へ行ってまいりました。ここでは、手づくり工芸の里綾町として、町全体を手づくり工芸の里として頑張ってます。手づくり工芸品が1つの文化として育ってます。現在では、40以上の工房があって、190人の工芸家が丹精込めた作品をつくっております。そこでは、技術の交流とか研修を通じて、工芸品の品質向上、新製品開発、あるいはイベントや何かの企画、そ

ういったものをやる。そのための中心になっているのが、綾町工芸コミュニティ協議会というものがあるんですね。

やはり、既存の作家等も含めて、そういう連携した協議会のようなものを、別に組織つくるかつくらないかはともかくとして、そういうものがないとイベントをするにしても、あるいは今後の技術、あるいは作品、そういったものがないものやっっていく、ブランド化していくというのに欠かせないものじゃないかと思うんですけれども、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、ご指摘の点についても、やはり非常に先進地事例もご指摘いただきました。

我々といたしましては、そういうところがない中での、暗中模索でスタートしておる部分があるのかなと思ったら、そういうのがあったということでございまして、そういう先進事例も見ながら進めていきたいと思っておりますし、また、やはり過疎の最前線においてはいろいろと地域とのコミュニティなりも必要でございましょうし、地域の元気にもつながる部分もございまして、単にこの匠の作家だけではなくて、地域とのやっぱりコミュニケーションをとっていくことも大切かなと思っておるわけございまして、地域も元気になっていくような形に持っていければと思っておりますので、その辺もやはり力を入れていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

じゃ、2番の中山間地の活性化策、1番目のさんビズ。

新しいライフスタイル、新しい価値観といいますか、大体、中山間地において大きなことを考えるというよりも、スモールビジネスのほうがかなり効果的だということで、提案させてもらっております。

こういったグローバル経済の中で、この競争社会と体得にあるこういう価値観。最初、答弁でももらっているんですけれども、これは現在住んでおられる方はもちろんですけども、移住の促進にもつながるんじゃないかと思うわけですけども、この辺の考えっていいんでしょうか、観点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（斉藤喜代志君）

スモールビジネスということで、取り組みやすく、しかも引き際も引きやすいといったところが、やはり特徴な部分かなといったふうに理解しております。やはり、地元っていうか、もともと住んでいらっしゃる方々のビジネスにもなっていくでしょうし、それから移住者としても、要はなかなか

+

か1.0、1人っていう仕事がなかなか得づらい地方とかの状況の中で、0.5、0.3、0.2というようなその仕事を集める、そういう生き方も、今、移住者の中では非常にはやっておるといいますか、結構多くいらっしゃる。そういったものの1つとして、このさんビズも非常に魅力的だなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そういうことはわかるけれども、じゃ、具体的にどのように進めていくかということになっていきますけれども、やはり新しいライフスタイルの1つということで、地域のその環境等を知らなければいけませんし、そういう考えを広めなければいけませんけれども、何か具体的な環境づくり等に対する考えというのはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○定住促進課長（齊藤喜代志君）

今、考えているのは移住者へというよりも、地域の皆さんとという部分で、皆さんの生活しているところに、いろいろごろごろとビジネス転がってるんじゃないかというような投げかけ方、そういったことができればいいなと思っています。

ただ、もともと地域づくりプランとかの中で、地域ビジネスといった視点で事業を考えていっている地区もあります。野菜の直売所とかっていうのは、最たるものなんですけど、そういったものをきっかけに、実はさんビズと呼んでなくても、サンビズのような仕事っていうか、生き方を進めているところもあるということで考えております。

ただ、もう少しちょっと意識づけをしていくには、これをテーマにしたちょっと懇談会をやるとか、そういったことも必要じゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

長岡では、昨年6回の講座を開催してます。それに参加した人、あるいは先日の発表会、若い20代から40代が多かったということで、かなり遠方からも来ています。

これはやはりこういったことに対する講座がやはりないと、ただ思いつきやら何やら、幾らリスクがないといっても、ちゃんとした体系づけのようなしっかりした考えをコーディネートするものが必要じゃないかと。ぜひ、その辺の視点で取り組んでもらいたいというふうに思うわけです。それを、地域プランの中に反映させていくというふうにしたらどうかと思います。

これはもともと、山の暮らし再生機構、公益財団法人ですけれども提唱しているものなんですけど、スタートしたきっかけというのは、中越地震で被害を受けた長岡市の中山間地の復興であります。

スモールビジネス、この考えというのは、糸魚川大火の復興のヒントにもなるんじゃないかとも

思うんですけども、今のお話のやりとりの中で復興のほうとしては、何か感ずるところあったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

復興のまちづくりによって、市外の皆さんから興味を持っていただいているところに着目をする中においては、今のようなスモールビジネスで、糸魚川に市外からおいでいただいて、にぎわいづくりにもお力をいただけるというふうな仕掛けも、1つの見方とすればあるんじゃないかなというふうに思っておりますので、復興の中での1つの参考とさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

では、生薬の里づくりですけども、これ概念、生薬というのは、薬草の根っこ、あるいは葉っぱ、果実、花、動植物の分泌物とかそういったようなもので、加工して漢方薬の原料となるというものらしいんですけども、糸魚川を生薬の里にする会、これは、糸魚川を生薬の産地として確立することを目的にして活動しております。

答弁にありましたように、非常に栽培等においては、厳格なものを求めているところもあります。したがって、栽培指導が必要になるということでもありますけれども、そのために、東京生薬協会というものがあるんですけども、そちらのほうとの連携が協定が必要なんです、そのことについていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

製薬会社が求める生薬、これには田中議員ご指摘のように、トレサビリティが明確であるとか、安全性の保障とか、企画の適合性とかそういうものが大事になってきます。また、安定供給できるということが必須になるというふうに認識しております。

このためには、単に栽培をしても製薬会社っていうのは、取り扱ってもらえないんだろうというふうに考えておりますことから、その技術的な指導、こういうものが必要になってくるというふうに考えております。また、その指導をいただける機関の1つが、今ありました東京生薬協会だというふうに、認識をいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

農水省の支援の中には、薬用作物等の産地形成を確立させるため、栽培実証圃場の設置等のほか、

事前相談窓口の設置、あるいは栽培技術の指導体制の確立に向けた取り組みを支援する、薬用作物等を地域特産作物産地確率支援事業があるんですけども、こういった支援を活用しながらやっていくのも、一つの手じゃないかと思います。

ただ、やはりこれにも栽培の指導者とか買い取り先等が必要になってくるということで、東京生薬協会との提携というのが、1つの大きな連携するのが大事になってくるんじゃないかと思います。

東京生薬協会は、大正製薬だとか、ツムラとか龍角散、養命酒、国内の大手の製薬会社が加入しております、一環した生産から販売のほうも視野に入れてますので、ぜひ、その辺、一緒になって考えて、連携をやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、3番目の森林整備の取り組み支援についてであります。

能生谷の神道山で進められております実践で、能生事務所ではこのNPOが、神道山をどのような目的を持って、どういう計画を持って取り組んでいるか、この活動をどのよう認識しているかご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

昨年8月の30日ですけれども、神道山の森保全活動に向けて検討会というのが、生涯学習センターで開催されまして、そこに能生事務所の主査が1名、参加させていただいております。平成28年度は交付金をいただいて、1年目の作業が終わったということで、平成29年目に入りたいということで、取り組みをしていきたいということだそうでございます。

それで2年目は、今の神上道山のエリアから、少し下のほうに、今、トイレがあります。能生事務所のほうで管理しておりますが、そのトイレの周辺のところを、今度、自伐というのか伐採の事業に入りたいということで、こちらのほうは、市の所有でありますので、土地利用の関係の協定を結ばないと、交付金の申請ができないということで、そのあたりの話を、地域振興局の林業振興課さんのほうに、実は21日の日に、ちょっと問い合わせをかけて、ちょっと面談をさせていただきました。そういう段取りを、団体と進めているというところだそうでございます。

商工農林水産課のほうも、基本的には、この団体の取り組みを応援していきたいというふうに考えているということなものですから、当然、能生事務証のほうでも応援をしなきゃならん。また、神道山公園の指定管理者、この平成29年から3年間、また新たに協定を結ぶわけなんですけど、そちらのほうの代表にも、こういった活動が周辺であるということで情報提供して、ぜひ、応援してもらいたい。また、そちらの代表の方も応援しますよということで、回答をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

所長は、このチラシはご存じありますか。ご存じかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

はい。1枚いただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほど、所長が言われたようなことを、当面やっていくわけなんですけれども、この中には、それにとどまらないものがいろいろ書いてあるわけなんですよね。その辺は、どのように認識してますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

今のその活動の広がっていく部分については、まだ、私のほうでもちょっと勉強不足でありまして、基本のさわりのところしか、ちょっと勉強してないもんですから、また、その代表の方と話す機会があれば、ぜひ、お話を伺いたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も、あわせてこういうチラシも全部、チラシのほかにこういう資料ももらったんですけれども、こういうのは全部、じゃ、能生事務証のほうには届けてあるのと言ったら、届けてあるということでもあります。

原所長はこれまでに、こういう集まりやら話を持ちかけてきているらしいんですけども、団体のほうでは、話しされたことはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

この、高志の福祉村さんの案件であれば、ちょっと私のほうは、まだ、その会には参加しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

+

このチラシを1枚もらったのはいつなのか、もうこれ去年からずっと、事務所のほうにたくさん置いてあるというふうに聞いてもいるんですけども、私もその辺は確認してないんですけども、こういうしっかり理想を持って燃えて、実際、自伐型林業をやって、里山を再生しようという志を持ってやっているわけですけども、まだ1度も、もう去年、おとしあたりからこれ、始めてる事業なんですけども、会っていないと。ぜひ、こういうのを、まず聞くだけでも聞いて、それからのように支援できるところは支援する、あるいは連携するところは連携すると、やっていかなきゃいけないんじゃないかと思います。

彼は、ここ神道山のジオパークになっているわけですけども、今、里山会さんが一生懸命、指定管理になってやっていただいているし、また、この活動にも理解をされてるということで、非常に神道山と連携した、ジオパークとして連携したものにしたいというふうに言ってるわけなんですよね。そういうことで、ぜひ、一緒にやっていただきたい。もう一度、その辺のご答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

神道山を管理している里山の会の方々も、こちらの団体の活動によって、近くでやってるものですから、また、神道山の公園の利用の促進になるのではないかなということで、お互いに相乗効果というようなことも図れるのではないかなということで、賛同をしているということでございます。能生事務所としても、応援したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

聞いておられる言葉はいろいろあるんですけども、1つは自伐型林業たるものですけども、自伐型林業を理解していますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

自伐型のその林業を理解してるかっていうことなんですけども、ちょっと私は、まだ勉強不足でありまして、これから勉強していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

商工農林課長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

池田商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 池田 隆君登壇〕

○商工農林水産課長（池田 隆君）

自伐型林業の捉え方でございますけども、森林所有者、それから地域が、みずからの森林の経営や管理を行う自立自営型の林業だというふうに考えております。低コストで環境保全型の林業であって、就労機会も幅広く、就業者の総出力も高いというふうに言われております。地方創生においても期待されるというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そうなんです。これを実践し始めているんです。非常に、さっきのさんビズと共通したところもあるわけなんですけれども、これが1つのモデルとして、また他の地域に広げることができていくと。だから、これをぜひ、成功させてあげたらいいんじゃないかと。ぜひ、その辺を理解してもらいたい。窓口が、もし能生事務所になるなら、その辺しっかり考えていただきたいと思うわけなんです。ね。

さらには理想として、フォレストアドベンチャーを考えているんですけども、これもご存じないです。ね。そういったことは、後で調べてください。そういったことも、視野に入れております。

次に、新学習指導要領でありますけれども、これ今でも、大変、現場が過剰な労働といいましょうか、大変なことになってるわけなんですけれども、さらにこのままだと、週1こま分、45分の時間が確保することが必要というふうに言われております。この点について、どのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

新しい学習指導要領では、3年生以上に、今、5、6年生やっております外国語活動という授業が、週1時間ふえることとなりますし、5、6年生では、外国語は週2時間行うこととなり、小学校3年生以上でトータルしますと、小学校は週1こま、45分ふえることとなります。

現在、非常に厳しいところであるんですが、1つとしては、多くの学校が、月曜日が5時間で終わっているところを6時間やるか、または、今、朝の時間を15分ずつ、短い時間を、15分を3回やるということで1校時というふうに数えるような、そういった学習も今、提案はされておりますので、そういったことについて、これから研究を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

あと、人材や研修が大事なんですけれども、先ほど、ALTの訪問回数、ALTそのものもふや

すことも視野に入れてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

A L T、現在4名おまして、今、交流観光課の1人にも手伝ってもらっておりますが、予算を認めていただければ、もう1名の増を考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

プログラミング学習ですけども、これと同じことが、先月21日にヒスイ王国館で、上教大の情報メディア教育支援センター、大森准教授がオゾボというプログラミングロボットを使って、教室を開きました。課長もおられましたんで、その印象を、まずお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

子供たち、小学生の子供たち、低学年の子もおりましたが、保護者の方と一緒にタコ焼き型のロボットを、コンピューターからダウンロードした記号を読み取らせて、ロボットを動かすという授業をやっておりました。とても、子供たちは喜んでおりましたし、興味・関心を持たせる上では非常に、導入の段階では楽しい授業だったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私、こういうプログラミング学習は、早けりゃ早いほどいいと、前から思っていたんですが、もし、独自にこういった自治体で力を入れることができるならそういう、例えば情報メディア支援センター、せっかく今回やったので、さらに連携をとって、予算もかかるでしょうけども、早くやった者が勝ちと言えるところもあるんじゃないかと思えます。

きのうも、町田の小中一貫校がソフトバンクのペッパーを何台も登場させて、もうプログラミング授業を取り込んでおりますわね。やはり、もっと情報化、グローバル化の時代なので大事なんだけども、力のある私立だとか、あるいは都市だとかというほうが先行してしまう。地方がなかなか取り残されてしまう可能性があるんですけども、これまた逆にチャンスと捉えて、高校まで一貫してやるのを早く取り入れる考えを持ったらいかがかと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

それにはまず、教師の資質の向上というのが、一番大きな問題だと思っております。教職員の研修を進めることによって、ICTに強い教師を進めていかなければいけないと思っております。

来年度、算数、数学でデジタル教科書を活用した授業を進めていくようにしたいと思っておりますので、そういった面でも研修を進めて、教師の力量を高めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしく、その辺をお願いしたいと思います。

それで、騒音問題。先ほどの市長の答弁を聞いて、緩衝工の騒音防止は変化がないということなんですけど、ちょっとその辺、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

一昨年、年を明けましたので一昨年、平成27年と28年にそれぞれ、新潟県のほうで騒音測定をしてる結果ということでございますけども、柱道地区では、平成27年では72デシベル、平成28年では71デシベル。梶屋敷地区では、平成27年も28年も71デシベルということで、先ほど、市長が申したとおり、ほとんど変化がないという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この騒音防止の工事には、市のお金っていうものは使われているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

新幹線の工事でございますので、直接的には使われておりませんが、工事負担金という中で、市のほうからもその分については、負担しているものというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

市のほうでも、騒音測定をするというふうに、前に聞いたことがあります。されましたでしょうか。また、その結果はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

市のほうにおきましても、昨年5月と12月に、それぞれ梶屋敷、柱道、下小見というところについて、測定をさせていただきました。ただ、市の測定については、ハンディーの簡易的な測定ということで、5月の測定と12月の測定、ちょっと数字的にはばらつきがあるなという結果でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

この騒音の関係、防音工事等について、市のほうからお金、負担をしてるかということでありま
す。糸魚川市が負担をしてるのは、糸魚川駅から接続する都市計画区域の明かり部分ということ
でありますので、何と申しますか、こちらですと大和川まで、それから向こうのほうは青海のほう、
青海中学校のところのトンネルまでということでありま
す。失礼しました、トンネルとそれからも
う1つは、青海川の付近の明かり部分、それについては負担金が払ってありますけども、能生地域
についてはないということで、ご理解いただきたいと思いま
す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今後も、よろしくお願ひしたいと思いま
す。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後7時01分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+